

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責: 太田千夏

vol. 29 2026. 6. 22

令和7年12月13日に、当院において災害訓練を実施しました。午後からは病院前救護所・トリアージエリアを設置し多数傷病者の受け入れを想定した実践的な災害対応訓練を行いました。

病院前救護所



生駒市医師会の萩原医師が病院前救護所で診療されています



生駒市の協力を得て、避難所などで使用するテントや段ボールベッドの体験会も行いました



停電でエレベーターが使用できないため、傷病者をエアーストレッチャーを用いて病棟まで搬送しました

本訓練では、多数の傷病者を円滑に受け入れることを目的に、2階正面玄関に病院前救護所、正面受付にトリアージエリアを設置しました。今回は当院として初めて病院前救護所の設営・運用を取り入れた点が大きな特徴です。病院前救護所は、生駒市のBCPに組み込まれている地域医療の重要な機能です。そのため、今回の訓練では、生駒市内の医療機関関係者にも参加・見学いただきました。

病院前救護所とは、災害時に傷病者が一斉に病院へ流入することを防ぎ、軽症者の応急処置や振り分けを行う場所です。限られた医療資源の中で「**救える命を救う**」ため、病院と被災者の間に立ち、医療の効率化と病院機能の維持を支える重要な役割を担います。今回の訓練では、この病院前救護所における診療対応を、生駒市医師会よりご協力いただいた萩原医師にご担当いただき、実際の診療を想定した訓練を行いました。

トリアージエリア



院内職員に加え、他施設医療従事者や、生駒消防、看護学生にもトリアージ訓練を実施していただきました

重症と判断された傷病者に加え、病院前救護所で追加の処置や評価が必要と判断された傷病者が、院内で受付を行いトリアージや処置を行いました。一次トリアージで緑(軽傷)と判断された患者は緑エリアに移動してもらい、止血や縫合などの簡単な処置を実施後、帰宅となります。一次トリアージで赤(重症)・黄(中等症)と判断された傷病者は、赤・黄トリアージエリアに移動し、さらなる観察・応急処置を実施後、入院となります。

当院のスタッフに加え、生駒市長をはじめとする担当部局の担当者、生駒消防、他施設医療従事者、看護学生、一般見学者も参加し、100名を超える規模の訓練となりました。慣れない環境や初めての動線により、現場が混乱する場面もありましたが、大規模避難所などでは今回の訓練を上回る混乱が生じることも予想されます。当院は西和地区で唯一の災害拠点病院であり、西和地域の最後の砦として、傷病者が何百人に及ぶ状況であっても対応を求められます。その一方で、院内に入院している患者の安全確保も同時に最優先で行わなければなりません。今回の訓練では、病院前救護所を含めた動線や役割分担を実際に動かすことで、多くの課題や改善点を具体的に洗い出すことができました。災害などの有事の際に、地域の皆様が安心して頼れる病院であり続けるため、今後も病院全体が一丸となって災害対応力の向上に取り組んでいきます。今回の防災訓練にご参加・ご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
(患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。)